



# 令和4年度 第2回FCP若手フォーラム 開催後参加者アンケート

# 1. アンケート調査について

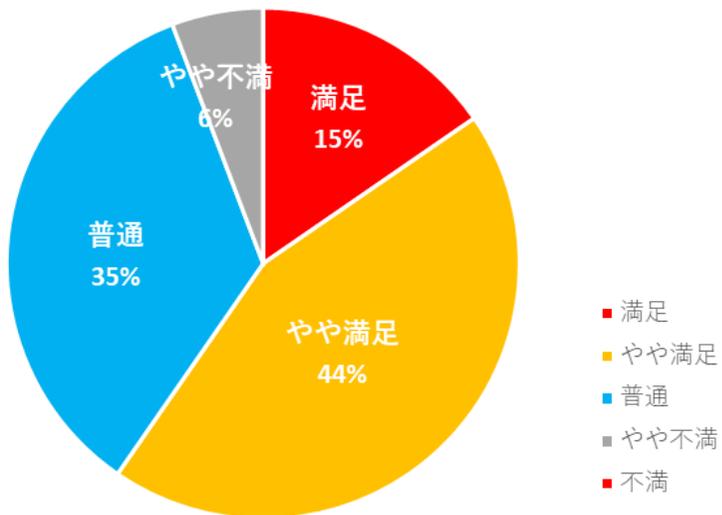
目的	本年度の第3回以降及び、翌年度以降の若手フォーラムの運営や進め方、その他FCP活動の参考とするため、第2回若手フォーラムに参加して感じたことや内容・進め方についてアンケート調査を実施
調査対象	令和4年度 第2回若手フォーラム参加者 34社69名（第2回参加者59名）
有効回答者数	52名（回答率：88.1%） ※小数点第2位四捨五入
方法	インターネットによる調査（農林水産省 FCPホームページより回答）
調査内容	<ul style="list-style-type: none"><li>◇講義について（満足度及び意見）<ul style="list-style-type: none"><li>a)「ザ・コンシューマー・グッズ・フォーラム（CGF）の活動とサステナビリティの取組について」（5段階評価及び自由記入）</li><li>b)「食の選択とプラネタリーヘルス～多様性の観点から～」について（5段階評価及び自由記入）</li></ul></li><li>◇ワークショップについて（満足度及び意見）<ul style="list-style-type: none"><li>a)テーマは適切であったか（5段階評価及び自由記入）</li><li>b)議論や講師からのフィードバックは参考になったか（5段階評価及び自由記入）</li><li>c)ワークショップ振り返り（自由記入）</li></ul></li><li>◇対面・WEB併用のハイフレックス形式において感じたこと（自由記入）</li><li>◇会場で出せなかった質問等について（自由記入）</li><li>◇時間配分について（自由記入）</li><li>◇その他若手フォーラムに関する意見（自由記入）</li></ul>

## 2. アンケート結果 (講演について)

### a) CGFの活動とサステナビリティの取組について

①評価 (5段階評価) ②ご意見、ご感想 (自由記入)

#### <講義>CGFの活動とサステナビリティの取組について

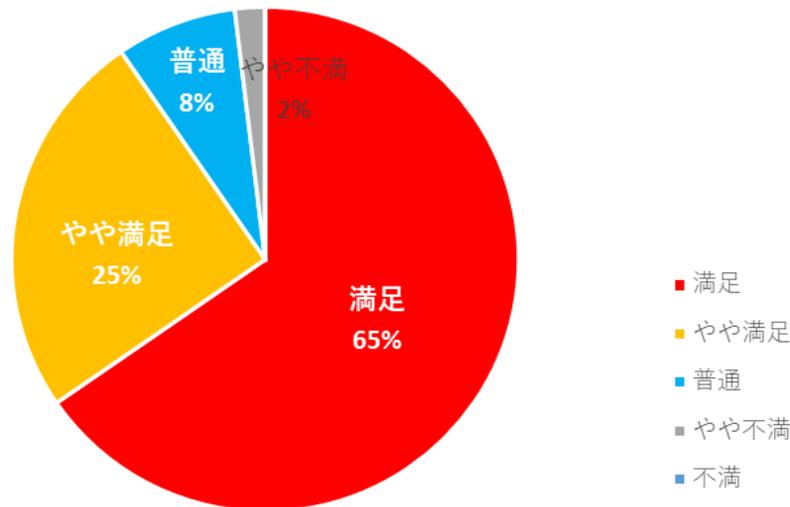


- ・CGFという組織の存在を今回初めて知りました。プラスチック廃棄や食品廃棄などのお話を聞いているとSDGsを思い出しました。持続可能な開発という意味でも、非競争分野における社会的・環境的課題の解決、というのは大事だと思いました。
- ・社会情勢の変化とそれに対するCGFの動きを知ることができました。まだCGFの取り組みに実際に触れる機会はありませんでしたが、今後も動向を注視したいと思います。
- ・CGFの概要や活動内容の説明が主だったため、全体のゴールが良く分からず、やや難しい印象を受けました。
- ・GFSIについては知っていたが、他にも環境・社会的サステナビリティの分野でも活動を行っていることが知れる良い機会になった。
- ・検索してみたところ、弊社もCGFの会員企業でした。勉強不足のため、今回はじめてCGFやその活動内容を知るきっかけとなりました。
- ・森林破壊の要因として牛肉などは知っていましたが、大豆も入っていると知って驚きました。
- ・具体的にどういった取り組みをされているのかももう少しききたかったです。

### b) 食の選択とプラネタリーヘルス～多様性の観点から～

①評価 (5段階評価) ②ご意見、ご感想 (自由記入)

#### <講義>食の選択とプラネタリーヘルス～多様性の観点から～

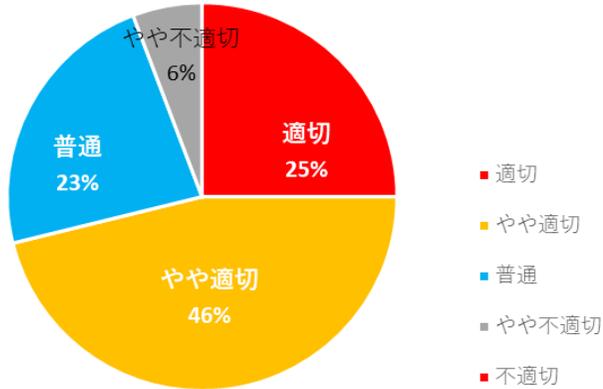


- ・話し方もわかりやすく、具体的な事例を多く紹介していただけたので興味をもって聞くことができた。
- ・学生時代に学んできた「人の健康・栄養」を新しい見方で見られたことが新鮮に感じられ、さらに興味をもちました。
- ・多様性については私たちメーカー（特に大量生産するメーカー）は課題として認識する必要があるなど日々感じていたため、考えさせられる内容でした。今後、すぐに対応はできないが今後の大きな課題として認識し取り組んでいきたい。
- ・初めて聞いた内容で、とても興味が湧く内容でした。プラネタリーヘルスについて、自分でも情報収集をしてみたいと思いました。
- ・「健康」や「体に良い」がいかに抽象的な表現・概念だと気づかされました。生きていく上で欠かせない食に関してもっと深く考えてみたいと思いました。
- ・持続可能だけで十分なのかというお話は衝撃的でした。
- ・国内外の事例なども交えながらの講義で、食品業界で仕事をしている立場として食と健康、多様性について色々と考えさせられました。

## 2. アンケート結果 (ワークショップについて)

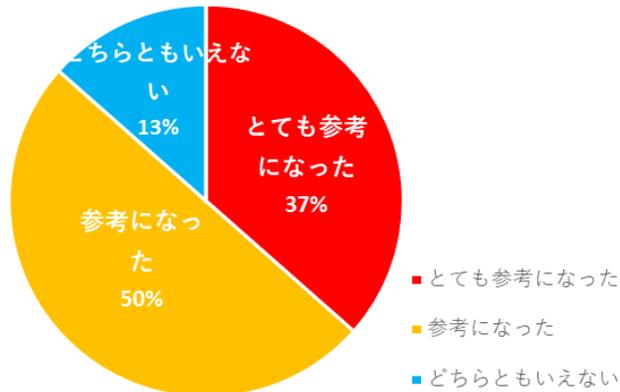
### a) テーマについて 評価 (5段階評価)

#### <WS> 食の課題と社会環境の変化



### b) 議論やフィードバックについて 評価 (5段階評価)

#### <WS> 食の課題と社会環境の変化



#### (WSの難易度・時間配分に関する意見)

- ・事前アナウンスの通りであり、意識してワークショップは進んだが、時間的な短さは難易度を上げた印象です。テーマや全体の流れは適切と感じました。
- ・欠席3名で、リーダーも急遽当日欠席となり大変な部分もありましたが、各自事前に考えを深めていたので、議論を深めることができてよかったです。
- ・メンバー内で共通の話題が持てたことはよかったです。しかしその反面、他のテーマに関しての話があまりできなかったことは残念に思いました。
- ・全体的には適切だと思うが、やや時間が足りず、無難な意見に落ち着いてしまったところが残念。
- ・チームや他のチームの発表を聞いて、事前課題について深掘りして考えられていなかったと感じた。

#### (WSに関する意見)

- ・参加者は食品製造業の立場からの意見に偏ってしまいましたが、小売の目線での意見も聞け参考になった。
- ・木村先生のおっしゃられていた「効率化と均質化」について今後の食品会社の在り方について考えたい。
- ・つい業務や消費者として身近な、想像しやすい内容にまとまり、枠に収まってしまうような流れがありましたので、フィードバック頂き、ディスカッションはより活発になったと感じます。
- ・企業や部署によって問題に対する意識や、解決に向けた取り組みが異なり、参考になった。発表の場では自分のグループでは出なかったような意見も聞いて面白かった。

#### (WSを振り返って)

- ①ディスカッションのテーマに何を選びましたか  
持続可能な原料・資源調達 / ワークライフバランスの確保 / 食品ロスの発生 / 健康・栄養課題、そのほか
- ②テーマに対して、深掘りは出来たか、またチームメンバーの意見を聞いて、どんなことがポイントであると感じたか  
・消費者と事業者、双方が一緒に取り組めることが大切であると感じました。深掘りしきれず、良くも悪くも現実的な内容となってしまったので、次回はもっと広い視野での意見交換ができるとさらに良いでディスカッションになるのではと感じました。  
・環境づくりが大事であると感じました。食品事業者だけでなく、それ以外の人も巻き込んで環境を作ることが大事だと思いました。  
・食品ロスの削減は最終的には消費者の行動次第になることが多いため、どのように意識を持たせるか行動に移させるかがポイントになる。事業者としては、食品ロス削減に付加価値をつけて消費者にアピールすることが重要  
・出来る出来ないではなく、自由な意見をどんどん発信することが大切だと感じた。  
・時間制限もあり、深掘りが十分だったとは言えないものの、メンバー個々の意見は聞くことができた。
- ③今後自分が取り組みたいと考えることは何か  
・事業者と消費者双方で持続可能な取組が出来るようモチベーションの上がるような仕組みを視野に仕事を行う  
・自分だけでなく、周囲も柔軟な働き方ができるような雰囲気を作っていきたい。  
・メーカーだけの視点でなく、つながりを重視していきたい。  
・取組というより、まずはいろんなことに疑問を持ち、今の状況がベストなのかを考えることから始めていきたい。

## 2. アンケート結果 (その他)

### a)対面・WEBの併用形式について (自由記入)

(対面参加者からの意見)

- ・対面であったがWEB参加者と互いの会話が聞こえやすく、スピーカーは良好だった。
- ・対面とWEBで温度差を感じる。  
ワークショップの際に話すときにだけマイクを入れるのではなく、常にマイクを入れるようになってからは会話がスムーズになったと感じた。
- ・1回目と比べて、設備の面と、参加者の慣れもあり、進めやすくなった印象です。チームや回により、WEBの参加の人数が異なるので、常に意識したいと思います。  
WEB参加の割合自体が、新型コロナの状況によると思いますが、対面参加が1～3名などだと対面参加の人が書記やフォローなどで負担が増えそうな印象はありました。
- ・対面・WEBの併用だと、やはりコミュニケーションがとりづらい場面がありました。今年度の実施は難しいと思いますが、参加方法が混在する場合は対面のチーム・WEBのチームで分けたほうがやり取りがしやすいかと思いました。

(WEB参加者からの意見)

- ・今回Web参加させていただきましたが、会場での講義の際に、Webだと講師の方の顔がわからないのが残念だった。  
逆にリモートで講義してくださった木村先生の方が顔がわかって、会場とは逆なのかもしれない良かった。
- ・感染拡大しており、私のチームはほぼWEB参加でした。そのような場合は、全員WEBに切り替えたほうが、話やすいのではないかと思います。
- ・zoomの使い方に慣れていないこともあり、コメントの送信に苦労した。第2回を終え、ようやくWSとはどういうものが少しわかった気がする。
- ・今回書記をWeb参加者が担当する試みをしたが、ディスカッション中は問題ないものの、発表にうつると発表画面が固定されるので、チームメンバー内で成果物共有が難しかった。(特に発表者が発表前に成果物を確認できず困った場面があった。)

### 事務局への意見・要望等について (自由記入)

(時間配分について)

- ・講義は1回につき1つでも良いので意見交換する時間をもっと欲しいです。
- ・少し講義の時間が長くてワークの時間が短い、一日の日程があってもよい
- ・ワークショップの時間が短すぎる。FCPフォーラムのメインはワークショップでの議論や意見交換だと感じており、皆さんからの意見に刺激を受けておりますので、講義は30分×2本(もしくは50分1本)くらいでも良いのではと思います。
- ・WSの時間をもっと長くしてほしいと感じた。また、時間が取れないならば、事前課題をより重くしていただき、ディスカッションを事前にするなどの対応をしてもよいと感じた。

(その他)

- ・広い範囲の講義内容から、具体的に自身の仕事や生活に落とし込めるような内容でとても充実した時間を過ごせました。
- ・次回の担当を決める時間を設けてほしいです。
- ・資料配布が直前ですので、予習時間を考慮し、一週間(土日含む)以上前に配布(講演概要はもう少し前)していただけると幸いです。



# 第3回以降の進め方等

## 第3回目以降の進め方について（事務局案）①

### ■ 打ち合わせについて

#### ◇ 開催前事前打ち合わせ（開催1～2週間程度前）

参加者：ファシリテーター、チームファシ、チームリーダー（第3回）、希望者、事務局

内容：①ワークショップにおける進め方（進行の注意点）

②ワークショップの内容について（テーマ、方向性の確認）

③参加者同士の交流の時間

#### ◇ 開催日打ち合わせ（当日昼、必要に応じて適宜）

参加者：ファシリテーター、チームファシ、（チームリーダー）、事務局

内容：ワークショップの進め方最終確認（全体）

#### ◇ 反省会（開催1～2週間後）

参加者：ファシリテーター、チームファシ、チームリーダー（第3回）、希望者、事務局

内容：①各回のアンケート集約結果のフィードバックとその他次回に向けた意見収集

②参加者同士の交流の時間

#### ◇ チーム内コミュニケーション（必要に応じて適宜）

事前課題：事務局に提出→チーム毎に事前共有

打ち合わせ：ワークショップの進め方等メールベース、WEBで実施

### ■ 次回フォーラムの参加形式について

#### ◇ 第3回若手フォーラムは、社会状況等も加味し、**オールWEB形式**で開催します

第3回：9月6日（火）午後

第4回：11月29日（火）午後 ※場所・時間調整中です（霞が関周辺会議室で30分程度早めて実施）

## 第3回目以降の進め方について（事務局案）②

### ■ワークショップについて（実施にあたりやっていただく事等）

フォーラムでは、事前課題に基づきチーム内でディスカッション・成果物の作成・発表を実施いただきます。

#### 【フォーラム開催前】

- ・第3回フォーラムの役割分担（第2回時に決定済み）
- ・事前課題の実施及びチーム内での事前共有

当日円滑に実施するために、個々人で実施いただいた課題をチーム内で集約・共有いただきます

※集約の仕方はチーム毎に自由です（課題依頼時に参考として提案はいたします）

#### 【フォーラム時】

- ・事前にお伝えしているテーマを元に、チーム内でディスカッションをしてください  
ディスカッション時の注意点等（別紙）を参考にして下さい
- ・意見の集約や資料作成の方法について  
各チームでまとめやすい方法で適宜実施（指定はしません） ex.)付箋形式、色分け形式・・・
- ・発表時の資料の共有方法について  
チームで書記を行った人が画面共有を実施  
3分の発表で時間が過ぎたら事務局から案内（音声or文字）

#### 【フォーラム開催後】

- ・成果物のご提出について  
フォーラム内で終わらなかった場合は追加のグループワーク（WEBやメール）も可能とします  
フォーラム終了後に一定期間（1週間程度）を目途に完成した成果物を提出  
※成果物を提出頂いた後、事務局から他チームの成果物の共有を致します

## (参考) フォーラム受講時の注意事項

### ■ 第3回は全員がWEB形式での参加となります！！勝手に少し変わってくるので、下記ご参考にしてください

#### ◇全員WEB形式での参加の際の注意点

##### (メリット)

- ・全員が同じ環境になるので、温度差が生まれづらい
- ・個々の状況がカメラやマイクを通じて見える

##### (デメリット)

- ・雑談や少人数での会話がしづらい
- ・話を切り出すタイミングが難しく、一人ずつしか話しが出来ないので、WSに時間がかかる



#### ◇こんな風にやってみては！！（一例です）

- ・WS時は全員のカメラ・マイクON（通信が乱れた場合はカメラを切る）
  - ※職場からフォーラムに参加する場合は、イヤホンを使用するのがおススメ
- ・PC画面は取りまとめフォーマットが共有されているので、事前課題等必要なものはお手元に印刷が◎！
- ・画面共有しながら資料作成することになるため、書記は取りまとめフォーマットをPC上に開いておきましょう
- ・リーダーは積極的に参加者を指して、ディスカッションを回しましょう
- ・チームメンバーは挙手ボタンを使用し、積極的に発言ください
  - ※発言時には○○（名前）を言ってから発言？
  - ※発言前後に、自身の意見をチャットに入れると書記がまとめやすい

☆チャットやスタンプを活用しながら効率よくWSを進めていくことが大切です！

☆こんなやり方がやりやすかった！などアイデアがあればぜひ事務局や他チームへ共有してください！